

「RYUGU IS OVER!!- 竜宮美術旅館は終わります」開催のお知らせ

歴史の証人として 60 年間このまちと共にあり続けた「竜宮美術旅館」は、黄金町の浄化・再生という大きな変化の中で、2012 年 3 月、取り壊しが決定いたしました。幾度に渡る改装と大勢のアーティストの痕跡をとどめた「竜宮美術旅館」。その最後を飾るべく、世代を同じくした全 14 組のアーティストが全館を使い、展覧会「RYUGU IS OVER!! - 竜宮美術旅館は終わります」を開催します。この建物の中で、あなたはまた見ぬ作品との出会いを体験し、このまちの新しい歴史を語り継ぐ一員となるでしょう。

■展覧会概要

展覧会タイトル：「RYUGU IS OVER!!- 竜宮美術旅館は終わります」

期間：2012 年 2 月 17 日（金）～ 3 月 18 日（日）（全 20 日間）

開館時間：月・金・土・日 / 13:00 ～ 21:00 ※一部の作品は 20:00 までの鑑賞となっております。

会場：竜宮美術旅館（〒231-0053 横浜市中区日ノ出町 1-53-2 京急本線日ノ出町駅 徒歩 1 分）

入場料：500 円（期間中何度でも入場可）

web サイト：<http://ryugubijuturyokan.org/>

参加作家（全 14 組）：

青田真也 / 浅井裕介 / 臼井良平 / 狩野哲郎 / 志村信裕 / 武田陽介 / 富井大裕 / 丹羽良徳 / 森田浩彰 + 大久保あり / 八木貴史 / 安田悠 / SHIMURABROS. / mamoru / Yu Cheng-Ta

関連イベント：

◎ オープニングパーティー

「Over is Start」

2 月 18 日（土）19:00-21:00

◎参加作家が本展キュレーターの宮津大輔とリレー式対談

「大輔の部屋」

日時などの詳細は web でご確認ください。<http://ryugubijuturyokan.org/>

キュレーター：宮津大輔

空間演出：LPACK

プロジェクトマネージャー：野田智子

主催：「RYUGU IS OVER!! - 竜宮美術旅館は終わります」展 実行委員会

協力：AI KOWADA GALLERY / 青山 | 目黒 / ARATANIURANO / Chi-Wen Gallery / 無人島プロダクション / YUKA TSURUNO / Yumiko Chiba Associates

特別協力：NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター

宣伝美術：津山勇（ヤング荘）

写真：笠木靖之

アクセス：

竜宮美術旅館 Ryugu Bijutu Ryokan

〒231-0066 横浜市中区日ノ出町 1-53-2

京急本線日ノ出町駅 徒歩 1 分

■ 展覧会の見どころ

1、同世代アーティスト全 14 組がみせる表現

本展は美術コレクターでもある宮津大輔がキュレーターを務め、全 14 組の参加作家を選出いたしました。「竜宮美術旅館」にゆかりのあるアーティストだけでなく、世代を同じくする革新的な取組みでヴィジュアル・アートの可能性拡大を追求するアーティストが参加します。この場所に合った作品を新たに制作する者や、本展を契機に参加作家同士でコラボレーション作品を発表する者など、この「場」でしか見ることのできない作品がお目見えします。

2、LPACK がみせる新たな空間

「竜宮美術旅館」と出会ってから 2 年間、黄金町エリアマネジメントセンターとの共同運営者としてここを管理してきた LPACK。この建物の最後を見届ける彼らは今回、空間演出という立場に関わります。これまでにあったカウンターを解体し、破片を空間の中にちりばめることで、作品を眺めるための装置を完成させました。これまでの「竜宮美術旅館」とは一味違う、鑑賞者と作品のための、新たな空間にご注目ください。

3、あらためてみる「竜宮美術旅館」

この特異なスペースの中で、アーティストそして作品同士が呼応し合い、LPACK のつくる空間の中で引き起こす化学反応は、物理的には消失してしまう「竜宮美術旅館」の存在をあらためて再認識する事となるでしょう。今、ここでしか生まれることのない出来事、空気を体験をぜひお楽しみください。

■ 得体の知れない謎の建築「竜宮美術旅館」とは、一体なに？

「黄金町バザール」などで訪れた方や、この名前を目にした方も多いかと思います。

2009 年 9 月、廃墟となったこの建物をギャラリーやラウンジ、カフェなどが併設する施設へとコンバージョンする「竜宮プロジェクト」が発足しました。このプロジェクトは NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンターと LPACK、建築家によってすすめられ、このまちで活動するアーティストによって「竜宮美術旅館」と名付けられました。増改築が繰り返された建物は、その時代ごとに使われ方も違ったようで、オリジナルの部分がどれなのか分からないほど、どこかしこに改装された痕跡が残っています。改修を手伝ってくれた大工さんによると、オーナーがおおまかな間取りを決めて、あとは各職人が腕を競い合ったんじゃないかと話したそうです。だから様式もちぐはぐなのだろうと。もしそれが本当だとしたら、まるでこの建物の展覧会は当初から始まっていた、といってもいいかもしれませんね。

【竜宮美術旅館の歴史】

1945 年～ 48 年—建設。

1956 年当時の地図では「旅館・清明荘」

1985 年当時の住宅地図では「山賀旅館」

?～ 2005 年—住宅として使用

2005 年～ 2010 年—倉庫として使用

2010 年—NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター借受

2010 年 7 月—NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター、建築家、
アーティストと共に「竜宮プロジェクト」として改修をはじめる

2010 年 10 月—「竜宮美術旅館」命名

2012 年 3 月末—日ノ出町駅前 A 地区市街地再開発事業により取り壊し

■ 本展覧会のお問い合わせ

竜宮美術旅館 Ryugu Bijutu Ryokan
〒231-0066 横浜市中区日ノ出町 1-53-2
TEL/FAX/ 045-341-4844
info@ryugubijuturyokan.org



■作家プロフィール

青田真也 (Shinya AOTA)

1982年大阪府生まれ。2008年、愛知県立芸術大学大学院修了。身近な既製品や大量生産品の表面をヤスリですり落とし、見慣れた表層を奪い去ることで、それらの実質や情報などの価値を問い直す作品を制作。近年は「モノ」にとどまらず、「空間」に対しても同様のアプローチを行っている。最近の主な展示に、2011年「project AOTA SHINYA + andbooks」StarGallery (愛知)、「somewhere in time」TentGallery (Edinburgh)、2010年「個展」青山 | 目黒 (東京)、「あいちトリエンナーレ 2010」(長者町地区) など。



< > 2010 撮影：加藤孝司

浅井裕介 (Yuusuke ASAI)

1981年東京都生まれ。絵描き。テープ、ペン、土、埃、葉っぱ、道路用白線素材など身の回りの素材を用いて、キャンバスに限らず角砂糖の包み紙や紙ナプキンへのドローイング、泥や白線を使った巨大な壁画や地上絵のシリーズまで、あらゆる場所と共に奔放に絵画を制作する作家。

<http://www.arataniurano.com/>



《泥絵・祝福のダンス (部分)》2011 撮影：三村健二

臼井良平 (Ryohei USUI)

1983年静岡県生まれ。2003年工藤キキによるキュレーション展「盗まれた日記」康ギャラリー (東京) で初個展。主な展覧会に2004年「日常の変貌」群馬県立近代美術館 (群馬)、2008年個展「Flying goza mat」無人島プロダクション (東京)、2010年「NEW WORLD」island (千葉) がある。3月11日まで無人島プロダクションにて個展「PET (Portrait of Encounter Things)」を同時開催。

http://www.muji-to.com/artist_usui.htm



《PET》2012 ガラス W6×D6×H20.7cm
©2012 Usui Ryohei Courtesy of Mujin-to Production, Tokyo

狩野哲郎 (Tetsuro KANO)

1980年宮城県仙台市生まれ。2007年東京造形大学大学院造形研究科修士課程修了。レジデンスや滞在制作型のプロジェクトを中心に制作に取り組む。自然物と既製品を合わせたインスタレーション、ドローイング、写真などを使ったサイトスペシフィックな作品を多く制作。最近の主な展示に、2011年、個展「自然の設計 /Naturplan」東京都現代美術館 (東京)、グループ展に2011年「黄金町ハザール 2011」黄金町・日ノ出町一帯 (横浜) などがある。

<http://www.tkano.com/>



《自然の設計》2010 インスタレーション サイズ可変
ヨコハマアパートメントでの展示風景
Courtesy of the artist and YUKA TSURUNO.

志村信裕 (Nobuhiro SHIMURA)

1982年東京都生まれ。2007年武蔵野美術大学大学院映像コース修了。これまで一貫して映像プロジェクションによるインスタレーションを発表。「光をあてる」をテーマに、実写映像を日常風景に重ねあわせることで身近なものに新たな視点をつくりだす。

近年では代表作《赤い靴》をきっかけに国内外のパブリックスペースを中心とした屋外プロジェクトにも多数参加し、その表現は場所限定することなく自由に展開される。2011年、地域が選ぶ黄金町バザール賞を受賞。3月11日まで TRAUMARIS | SPACEにて個展「恵比寿幻燈祭 Dress」を同時開催。

<http://nshimu.blogspot.com/>



《赤い靴》2009

武田陽介 (Yousuke TAKEDA)

1982年名古屋生まれ。写真家・美術家。同志社大学文学部哲学及倫理学専攻卒。

東京都在住。

<http://yousuketakeda.net>



《025032》2010

冨井大裕 (Motohiro TOMII)

1973年新潟県生まれ。1999年武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。2011年より日本大学芸術学部助教。最初は石膏による小さな人型の作品を発表していたが、既製品を台座に使用した人型のシリーズを経て、現在は既製品のみを組み合わせた作品を制作している。その素材にはビニルテープやストロー、ポストイット、画鋸、キッチン用スポンジ、カーペットにハンマーなど様々な日用品や生活用品を用い、それらを並べる、重ねる、束ねる、折り曲げるなど非常に簡単な手法で組み合わせて造形作品とする。既製品を元来の機能や意味から解放し、色やかたちにまで還元し組み合わせることで彫刻を実践している。

<http://tomimotohiro.com/>



《hills》2011 撮影：木暮伸也
写真提供：前橋市文化国際課美術館開設準備室 ©Motohiro Tomii
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

丹羽良徳 (Yoshinori NIWA)

1982年愛知県生まれ。多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒。不可能性と交換行為を主軸し、国内外の公共空間で、地域や社会への介入を試みるパフォーマンスやプロジェクトを発表。主な作品に東ベルリンの水たまりを西ベルリンに移しかえる「水たまりAを水たまりBに移しかえる(2004)」、ヘルシンキで泥棒に銀行強盗をお願いする「泥棒と文通する(2010)」、東欧革命を知らない若者と社会主義者を結びつける「ルーマニアで社会主義者を胴上げする(2010)」など。展覧会に2010年「複合回路 vol.3 アクティヴィズムの詩学」ギャラリーαM(東京)など。

<http://www.niwa-staff.org/>



《自宅のゴミをサンフランシスコのゴミ捨て場に捨てていく》2006

森田浩彰 (Hiroaki MORITA)

1973年福井県生まれ。2002年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ MA ファインアート修了。近年は、2008年「日常の喜び」水戸芸術館（茨城）、2009年「この世界とのつながりかた」ボーダレス・アートミュージアム NO-MA（滋賀）でグループ展に参加。個展では、2008年「Clockwise」青山 | 目黒（東京）、2011年「Timequake」青山 | 目黒（東京）などがある。



《Clockwise》2005-2008 撮影：木奥恵三

大久保あり (Ari OOKUBO)

1974年東京都生まれ。1998年、武蔵野美術大学油絵科卒。99-2000年、ロンドン・ゴールドスミスカレッジ在籍。2001年、ロンドン・チェルシーカレッジ・オブ・アート&デザイン・MA 修了。近年は、自作の短編小説からインスタレーションを制作し発表する。主な個展、2008年「思い出せない」ギャラリーニモード（東京）、2010年「ペーグルを入れた紙袋は空っぽに」ギャラリーニモード（東京）、2011年「山の夢」ループホール（東京）。



《ワンダーフォーゲルクラブに入会するための良い答えもしくは、4千円を手に入れるためのまあまあの答え》2011
インスタレーションビュー

八木貴史 (Takafumi YAGI)

1982年静岡県生まれ。2011年に武蔵野美術大学大学院彫刻コース修了。2009年「ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION」最優秀賞受賞。同年「清水多嘉示賞」（奨学金）受賞。2011年には愛知芸術文化センターで行われた「ARTS CHALLENGE 2011」に選出。また同年「MONTBLANC Young Artist Patronage in Japan」においてグランプリを受賞。近年では、色鉛筆を集積させ造形する作品や、木粉の粘土による虫籠と虫の關係に着目した作品などを発表。



《vermilion》2010

安田悠 (Yu YASUDA)

1982年香川県生まれ。2007年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵修了。夢想めいた光景を揺らぐような独特のタッチと混ざり合う色彩のレイヤーで描く油彩作家。「曖昧なときの間をひとつの絵の中に留める」と本人がいう、時間の概念から解放された流動的な幻想世界は潜在意識へ浸透する。本展ではガラス絵に初挑戦。主な展示に「VOCA2008」（上野の森美術館）、「Art in an Office」（豊田市美術館）、「面影の向こう側」（YUKA TSURUNO）など。

<http://www.yu-yasuda.com/>



《Drift in traces》2011
oil on canvas
W727×D727 mm

SHIMURABROS.

1976年(ユカ)、1979年(ケンタロウ) 横浜市生まれ。

ユカ&ケンタロウによる姉弟ユニット。英国 セントラル・セント・マーチンズ 大学院 映画・舞台芸術学部卒業。新たな映像装置の発明によって既存の枠をこえたイメージの実体化を企てる。「SEKILALA - 3screen installation」が平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞受賞。カンヌ及びベルリン国際映画祭での上映をはじめ、ロンドン、パリ、ウィーン、メルボルンなど、国外にも作品発表の場を広げている。
<http://www.shimurabros.com>



《FILM WITHOUT FILM》2010 40mm x 530mm x H 165mm
Maraging steels, acrylic

mamoru

1977年大阪生まれ。日常にある微細な音を発見し、プラスチックストロー、サラシラップ、氷の様な日常品や、飲食、売買などの日常行為を音作品、音体験に読み替える etude シリーズを展開、国内外で展示、パフォーマンス、ワークショップを行う。2010年にトーキョーワンダーサイト主催による EXPERIMENTAL SOUND, ART, AND PERFORMANCE FESTIVAL に参加、パフォーマンス作品「etude no.13 氷を吊るすヴァリエーション」が最優秀賞を受賞。最近の主な展示に「再考現学」(国際芸術センター青森)、「NOWHERE」(国際交流基金ハノイ) など。

<http://www.afewnotes.com/>



《etude no. 39, instant noodle》2010

Yu-Cheng Ta (余政達)

1983年台南(台湾)生まれ。2011年国立台北芸術大学大学院修了。2008年「台北美術奨」にて大賞受賞。主なグループ展に2008年「台北ビエンナーレ 2008」(台北市立美術館(台北))、「Biennial Cuvée」OK Center for Contemporary Art (リンツ)、2009年「第53回ヴェネチア・ビエンナーレ」(ヴェネチア) などがある。2010年、Galerie Grand Siecle と Chi-Wen Gallery (共に台北) で個展を開催。作品《Ventriloquists: Introduction》と《She is My Aunt》は国立台湾美術館(台中)に収蔵されている。

<http://www.yuchengta.com/>



《adj. Dance》2010
video installation
Courtesy of the artist and Chi-Wen Gallery

■キュレーター

宮津大輔 (Daisuke MIYATSU)

サラリーマンである傍ら、収集したコレクションや、アーティストと共同で建設した自宅が、東京オペラシティアートギャラリー、テリム現代美術館(韓国・ソウル)での展示をはじめ、国内外のメディアで紹介される。2011年7月~9月台北現代美術館(台湾)で大規模なコレクション展開催。著書に「現代アートを買おう！」(集英社新書/中国語・繁体字版・台湾 Uni Books) 他。「WONDER SEEDS」(トーキョーワンダーサイト)2010-12年審査員、アートフェア東京2011-12 PROJECTS Artistic Committee メンバー。

■空間演出

L PACK

小田桐葉と中嶋哲矢によるカフェユニット。バックバックに詰めたカフェを様々な場所で開封し、「コーヒーのある風景」をつくりだす。コーヒーを媒体とした出会いやコミュニケーションの誘発と、臨機応変な空間演出により、まちの要素のひとつになることを目指す。2007年より活動をはじめ、アート、デザインの展覧会、ワークショップやトークイベントに参加。2009年2月より横浜黄金町に喫茶店「L CAMP」、2011年9月よりNPO法人黄金町エリアマネジメントセンターと共同運営するスペースにL CAMPを移転し「竜宮美術館」をオープン。2011年8月より公園をつくるプロジェクトLAND PARKを東京都豊島区で展開中。

■プロジェクトマネージャー

野田智子 (Tomoko NODA)

1983年岐阜県生まれ。静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科アートマネジメント修了。2006年より中嶋透、山城大督とアーティストコレクティブ「Nadegata Instant Party」のメンバーとして活動開始。2008年株式会社無人島プロダクション入社。2010年よりアーティストのアシスタント業務や国際展の広報などに携わるなど広くアートマネジメントにかかわっている。